「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業

令和4年度　高知の授業づくり講座（国語）

《　第1回 教材研究会　＆　第2回授業研究会　》

高知市立春野中学校

各研究会のレポートは，高知市教育委員会　学校教育課のＨＰをご参照ください。

発行：令和４年10月
高知市教育委員会
学力向上推進室

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和４年度高知の授業づくり講座」では，学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに，日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い，自ら学び続け，共に高め合う教員の育成を目指し，拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を１セットとして，年間２セット実施します。高知市の中学校国語の拠点校である春野中学校の第１回【教材研究会】（６月９日実施），第２回【授業研究会】（７月11日実施）を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

単元名：「地域とスクラム！」春野町を活性化させるための意見文を書こう　～根拠の適切さを考え，相手に伝わるように工夫して書く～

【出典】「根拠の適切さを考えて書こう」（光村図書『国語２』）

第１回　教材研究会

生徒の課題を解決するための単元づくり

＜これまでの授業における生徒の状況＞
・令和3年度高知県学力定着状況調査
「根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」の正答率13.6%
「自分の考えを明確にして書く」では正答率30.7%
無解答率15%以上
・根拠を吟味せずに書いたり，相手意識を持たずに書いたりするなど，意見と根拠の関係に着目し，伝えたいことが伝わる根拠であるか吟味・検討する力に課題

＜指導における課題＞
・単元を通して，毎時間文章を磨き上げていく指導ができていない。
・根拠（事実・情報・データ・具体例）と，自分の意見のつながりに着目させ，伝えたいことが伝わる文章になっているか考えさせる指導ができていない。
・生徒が用いた根拠が，意見を支えるために適切であるか考えさせる指導ができていない。

＜指導上のポイント＞
・自分の立場を決める際に，観点ごとに整理・分析をさせ，自分の考えを明確にさせる。
・根拠には「事実としての根拠」と「客観的なデータとしての根拠」があることを捉えさせ，それらが意見と整合性があることで説得力につながっていることを捉えさせる。
・自分の挙げた根拠の客観性や信頼性等を整理させ，適切な根拠を挙げさせる。

意見を支える適切な根拠とは何か考えさせ，相手意識をもって説得力のある文章を書く力を付けたい！

系統立った9年間の学びの再確認

B　書くこと(1)［指導事項］　（学習指導要領　P174，175参照）

【(小) 第５学年及び第６学年】
ウ　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【（中）第１学年】
ウ　根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。
・事実と考えを分けて書く。
・伝えたいことが説得力をもって伝わるように客観的で信頼性の高い根拠を挙げる。

【（中）第２学年】
ウ　根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。
・目的・相手を意識した適切な根拠を吟味する。
・説明や具体例を加える。

既習を踏まえて，単元を組み立てることが重要！

単元の目標

【学びに向かう力，人間性等】
言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。

【知識及び技能】
意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
((2)ア)

【思考力，判断力，表現力等】
根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
(B(1)ウ)
表現の工夫とその効果などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。
(B(1)オ)

第２回　授業研究会

【評価規準】粘り強く根拠の適切さを吟味し，学習の見通しをもって，自分の考えを書こうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕

本時(3/4時)2年1組
今村　有紀　教諭

導入で，修正前後の教師モデルを比較し，意見，根拠，意見と根拠をつなぐ考えとの関連を捉えさせる。
生徒は，捉えたことを基に，自分の意見文を見直す。

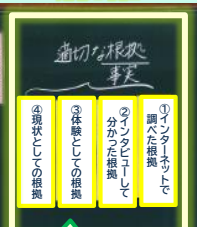
言葉による「見方・考え方」を働かせる場面

教師モデル　修正前　⟷　教師モデル　修正後

教師モデルの修正前と修正後の違いに着目して比較し，変えたこととその効果を考えている。

修正後の文章の構造

前時までに確認した適切な根拠



【本時の板書】

「地域とスクラム！」春野町を活性化させるための意見文を書こう。
～根拠の適切さを考え，相手に伝わるように工夫して書く～

相手　コミュニティスクールのメンバー
目的　春野町を活性化させる
※この取り組みをしたいと思ってもらう

地域の方と一緒に…
・長寿体操を作ってお年寄りに広める
・地元野菜を使ったスイーツと廃棄野菜を使ったピクルスを作り販売する
・あじさいの世話をし，きれいなあじさい街道を復活させる

めあて
相手に自分の考えが伝わるように，文章を練り直そう。

本時までの学習において，自分の主張を支える根拠は①～④のうちどれにあたるか，また主張を支えるのにふさわしいかを検討し，意見文を書く。

【指導のポイント】
修正前後の教師モデルを比較し，どのような意図で，どのように練り直したか，**文章を構造化して示す。**

修正前
5 4 3 2 1
意見
反論・それに対する考え
事実2と理由
事実1と理由
意見

教師モデルや教科書モデル等で文章を練り直す視点として捉えたこと
①重なりのある内容はまとめたり，削ったりする。
②事実（根拠）と意見を区別して書く。
③段落ごとに書く内容を整理する。

共有の際には，根拠と意見の関連に着目して読み，相互にタブレット端末のコメント機能を使って，工夫したことが効果的かどうかを評価し合う。

共有を踏まえ，さらに自分の文章を見直す。

修正の意図
事実（根拠）についての「考え」に重なりのある内容があるため，「考え」をまとめて段落を分けることで，伝わりやすい文章にした。

2　二〇二〇年六月五日（日）のあじさいウォークは，事前予約先着一五〇名限定だったが，参加者は一二七人だった。私は，あじさいの世話をして，もっときれいにしたら，あじさいウォークの参加者が増え，きれいなあじさいが咲いたら春野町が活気づくと考えた。
3　また，地域の人に聞くと，「昔よりあじさいがきれいじゃない。」と言っていた。古くなったあじさいを植え替えたり，肥料をあげたりして，きれいなあじさいを咲かせたら，昔のように「春野といえばあじさい」と思ってもらえるようになると考えた。

2　地域の人に聞くと，「昔は，あじさいが色とりどりできれいだったが，今は白っぽいあじさいや枯れているあじさいが多く，きれいとは言えない。」と言っていた。
3　また，春野町商工会のデータによると，春野町で六月に行われているあじさいウォークは，コロナ禍前には毎年約三〇〇人参加していたが，今年は事前予約先着一五〇名限定のところ，参加者は一二七人だった。
4　地域の人と，古くなったあじさいを植え替えたり，肥料をあげたりしてきれいに咲かせることで，昔のようにあじさいウォークの参加者も増え，「春野といえばあじさい」と思ってもらえるようになると考える。

【構造的に文章を練り直した生徒の意見文】

春野町では，野菜や果物が有名です。特にトマト，きゅうり，ナス，メロンなどが有名です。トマトはゼリー，きゅうり，ナス，メロンはマリインやケーキにすることができます。これらに加えて，商品名に「春野町」を入れると，もっと地域性が出て，春野町をアピールすることができると考えます。
また，インターネットによると，高知市の年間の食品ロス量は5614tで，一人一日あたり47.1gの食品ロスが起きているようです。このことから，春野町でもたくさんの食品ロスが起きていることが分かります。廃棄野菜を使ってピクルスを作ると，費用を抑えられると，春野町の野菜を多くの人に知ってもらえると思います。

生徒コメント

意見と根拠をつなぐ考えが同じなのでまとめると分かりやすくなる。

初めに「有名」という言葉が重なっているから，一つでいいと思う。インターネットのどのサイトの情報？

具体的な数字が説得力があっていい。どこからの情報かを書いたらいいと思う。

春野町では，野菜や果物が多く栽培されています。特にトマト，きゅうり，ナス，メロンなどが有名です。中央西農業復興センターのデータによると，高知県の冬春きゅうりの収穫量は全国５位で，春野町では冬春きゅうりを54ha栽培しており，県内一位の作付面積があるそうです。
また，高知県のデータによると，高知市の年間の食品ロス量は5614tで，一人一日あたり47.1gの食品ロスが起きているそうです。このことから，春野町でもたくさんの食品が無駄になっていることが分かります。廃棄野菜を使ってピクルスを作ると，費用を抑えられるし，環境にも良いと思います。
廃棄野菜を使ってピクルスを作ると食品ロスが減り，費用を抑えられるし，環境にも良いです。それに，地元野菜スイーツと廃棄野菜を使ったピクルスを作り販売することで，春野町をアピールでき，たくさんの人に春野町のことを知ってもらうことにも繋がると考えられます。

【生徒の振り返り】
根拠を挙げる時に，発信元をきちんと書き，数値を示すことで説得力が増す。自分の文章は，意見と根拠をつなぐ考えに同じようなことを書いていたので，「事実」・「事実」・「考え」と段落を分け，分かりやすくした。自分の主張を支える根拠を変え，春野町で多くの野菜が作られていること，その野菜を無駄にせず，春野町をアピールする方法があるということを伝えようとした。

【授業者より】

本時では，より伝えたいことが伝わる文章にするために，自分の文章を構造的に見て文章を練り直させた。中には，全体を俯瞰して見ずに部分的な視点で文章を修正した生徒も見られたため，今後も，どの領域の指導においても，「内容に着目させる指導」と「構造に着目させる指導」を行い，学習指導要領が求める資質・能力を身に付けさせていきたい。
また，タブレットを使用した文章作成とコメント機能を用いた助言は，私としては新しい試みであった。生徒にとって，書き直しの負担感が軽減され，また，自分の文章の変容も可視化されるため，文章の練り直しに適した方法だと感じた。今後も効果的なICTの活用法を研究し，授業に取り入れたい。

【参会者の感想】
・「言葉による見方・考え方」を働かせ，自分の文章を見直す実践例として参考になった。モデル文と見直す視点を提示し，言語活動の充実を図っていきたい。
・主体的に学習に取り組む態度は，「粘り強さ」だけでなく「調整力」も働かせて学習活動に取り組めるような手立てが必要だと分かった。
・ICTの活用について，ドキュメントを班で共有し，瞬時にコメントをしあうことができるということが参考になった。また，板書がとても分かりやすく，構造的な板書計画を見習いたい。